

## 東日本大震災緊急災害対策本部への要請<第10弾>

東北志士の会 代表  
自由民主党福島県第二選挙区支部長  
郡山市防災対策アドバイザー

根本 匠

### “ふくしまの子供たちの健康と成長を守る” 世界一の子ども子育てプロジェクトを

福島県は、大地震、大津波、原発事故、原発事故による二次災害（原発起因災害）に見舞われている。原発事故収束の工程表は示された。原発事故の一刻も早い収束が待たれるが、福島県民を含め国民の皆さんには放射線リスクに対する不安が広がっている。放射線リスクへの不安は、身体から心、そして、産業経済へと幅広く影響している。

特に、子ども達、子を持つ親の不安をどう解消し、子どもたちの健康と成長をどう守るか、まさに今、子どもの心と身体の危機に直面している。ふくしまの未来を担う子ども達の安全、安心のために、みんなでたちあがろう！

#### I. 放射線、放射能の現状の正確な把握と除染

##### 1、放射線詳細モニタリング

放射能の飛散は広域に広がっている。県内の放射線量を地域別にきめ細かに計測、継続的にモニタリング。地域ごとの放射線量を正確に把握、公表。必要な地域は町内会等の協力を得て、全戸の放射線量を悉皆調査。

国、県、市町村等、関係機関の連携の強化、一元化。（福島県が中心となって、市町村や県立医大はじめ関係機関と連携してモニタリングを実施する（統一的な計測マニュアル等）。国は各省縦割りを廃止、支援体制を構築し、福島県はじめ関係機関をバックアップ。）

##### 2、土壌等の放射能調査、検査、除染

###### (1) 土壌等の放射能調査、検査

放射線モニタリング、放射線量分布マップ等に基づき、必要な地域について校庭、道路、田畑、公園、公共施設等の土壌を調査し、放射線量、放射能を検査。土壌放射能マップを作成。

###### (2) 土壌等の放射性物質を除染

地域放射線量、放射性物質の現状の調査分析をもとに、校庭、道路、田畑、公園、公共施設等、必要な地域について放射性物質を除染。放射線量を低下させるあらゆる手だてを講じる。

## Ⅱ. 子どもの健康を守る。県民の健康を守る。

### 1、放射線計量バッチの配布

子供の安心、安全のために、必要な地域について、医療分野で放射線技師等が胸に着けているバッチ式積算線量計を子供に配布し、一人一人の放射線量を把握、チェック。

### 2、健康調査、健康診断

県民一人一人について、健康への影響を長期間にわたり調査。

個人線量計の配布と、その解析、結果を各自治体で集約し専門家による指導。

原発の爆発直後に高濃度汚染地域に居住していた住民から、内部被ばくの検索（ホールボディーカウンターによる全身放射線量の検査）、健康診断の実施。希望者全員に同様の検査、健康診断を行える体制を確立。

### 3、子どもの「安心」・「安全」な運動場、遊び場の確保

通常の野外活動、公園の使用が制限。たとえ時間制限つきの安全宣言が出されていたとしても、乳幼児の保護者の不安は拭いきれない。成長期にある子どもにとって、運動は成長発達、精神的な安定に大きな役割。子どもたち、その保護者にとって、「安心」・「安全」な居場所、すなわち全天候型（屋内）の遊び場（砂遊び、水遊び等、各種の遊びや運動が行える場）を確保すべきである。

### 4、教育環境の整備

教育現場でも校庭の使用が制限され、また一つの体育館を共有しているため体育活動、クラブ活動を十分に行えない。現場では運動不足による肥満、ストレスによる様々な不安愁訴の増加、スポーツ強化選手育成困難などに対する不安の声も多い。

小学校から中学校にかけての時期は、運動能力が最も伸びる時期。将来の運動能力や、スポーツ選手を目指す児童にとっても大きな障害になる。教育環境の整備も重要だ。教育現場で児童が安心して授業に取り組めるよう、すべての教室、体育館への冷暖房設備を設置すると共に、屋内プール、全天候型の運動施設（トラック、野球場など）を緊急に整備すべきだ。

### 5、心のケア

福島県民、およびその周辺地域の住民は、震災による様々なストレスによって地域住民は大きな心の変調を来している。特に、子どもにとっては生活環境の変化、将来の健康不安が心の苦痛になっている。包括的な心のケアが必要だ。